

京都府立医科大学 2015 年第 1 問

地面に x 軸をとり、鉛直上向きを正の向きとして y 軸をとる。 xy 平面の原点 O から、 xy 平面内で、 x 軸の正の向きより角 $\theta(0 < \theta < \frac{\pi}{2})$ 上向きに、質量 m の小物体 P を速さ v_0 で投げ出す。重力加速度の大きさを g とし、重力による位置エネルギーの基準は地面とする。以下のそれぞれの場合について、すべての運動は xy 平面に限るとして、問いに答えよ。

問1 P は、 x 座標が l の点 A を通過した。その後最高点 H に達したのち、地面に落下した。点 A での P の運動エネルギーと重力による位置エネルギーはいくらか。また、 P の力学的エネルギーを求めよ。

問2 P は、最高点 H に達したとき、内部にある質量が無視できる火薬の爆発により、水平方向に質量 $\frac{1}{3}m$ と、 $\frac{2}{3}m$ の2つの破片に分裂した。その後、分裂した2つの破片は地面に落下し、落下点の x 座標は質量 $\frac{1}{3}m$ の破片の方が大きかった。分裂した瞬間の2つの破片の速度変化は水平方向のみで、火薬の爆発のエネルギー E は、すべて2つの破片の運動エネルギーに変わるものとする。

(1) 火薬の爆発力が小さくて $E < m(v_0 \cos \theta)^2$ を満たす場合、質量 $\frac{1}{3}m$ の破片の落下点の x 座標を求めよ。また、2つの落下点の間の距離はいくらか。

(2) 一方、火薬の爆発力を大きくすると、質量 $\frac{2}{3}m$ の破片は点 O に落下した。そのときの質量

$\frac{1}{3}m$ の破片の落下点の x 座標を v_0 、 θ 、 g で表わせ。

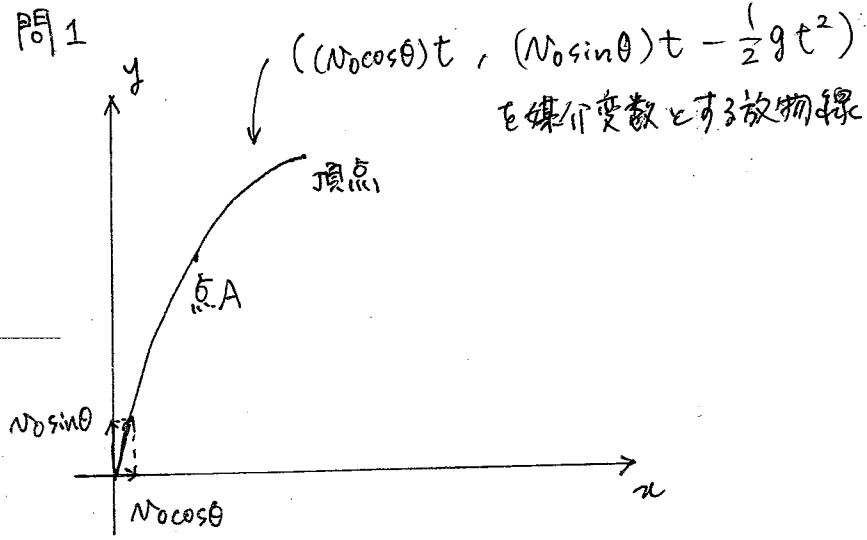
問3 P は、最高点 H に達したとき、同様の火薬の爆発によって、垂直方向に質量 $\frac{1}{3}m$ と $\frac{2}{3}m$ の2つの破片に分裂した。分裂した瞬間の2つの破片の速度変化は垂直方向のみで、火薬の爆発のエネルギー E は、すべて2つの破片の運動エネルギーに変わるものとする。上向きに分裂した質量 $\frac{1}{3}m$ の破片を Q 、下向きに分裂した質量 $\frac{2}{3}m$ の破片を R とする。破片 R が地面に達したとき、破片 Q は落下している状態であった。

(1) R が地面に達したときの Q の y 座標はいくらか。

(2) 火薬の爆発のエネルギー E はある値より小さい。その値を求めよ。

(3) 火薬の爆発のエネルギー E が $E < \frac{1}{24}mv_0^2$ を満たす場合、 θ が θ_1 のとき火薬が爆発した点 H の y 座標と、(1)の Q の y 座標が等しくなった。 $\sin \theta_1$ を求めよ。

問1



$(v_0 \cos \theta)t, (v_0 \sin \theta)t - \frac{1}{2}gt^2$
 媒介変数とする放物線

A(l, h)とすると、時刻Tに通過するとして

$$(v_0 \cos \theta)T = l \quad \therefore T = \frac{l}{v_0 \cos \theta}$$

$$\therefore h = (v_0 \sin \theta) \cdot \frac{l}{v_0 \cos \theta} - \frac{1}{2}g \left(\frac{l}{v_0 \cos \theta} \right)^2$$

$$= l \tan \theta - \frac{1}{2} \frac{gl^2}{v_0^2 \cos^2 \theta}$$

位置エネルギーから先に求める。「 $U = mgh$ 」より-

$$U = mg \left(l \tan \theta - \frac{1}{2} \frac{gl^2}{v_0^2 \cos^2 \theta} \right)$$

$$= mgl \tan \theta - \frac{1}{2} \frac{mg^2 l^2}{v_0^2 \cos^2 \theta}$$

次に力学的エネルギーEは ← Eの文字は本文で別々に使われて
 いるのでEとLT2。

$$E = \frac{1}{2} m v_0^2$$

よって運動エネルギーKは

$$K = E - U = \frac{1}{2} m v_0^2 - \left(mgl \tan \theta - \frac{1}{2} \frac{mg^2 l^2}{v_0^2 \cos^2 \theta} \right)$$

$$= \frac{1}{2} m v_0^2 - mgl \tan \theta + \frac{1}{2} \frac{mg^2 l^2}{v_0^2 \cos^2 \theta}$$

問2 頂点H(Hx, Hy)とすると、時刻tにHに到達するとして

「 $v = v_0 + at$ 」より

$$0 = v_0 \sin \theta - gt \quad \therefore t = \frac{v_0 \sin \theta}{g}$$

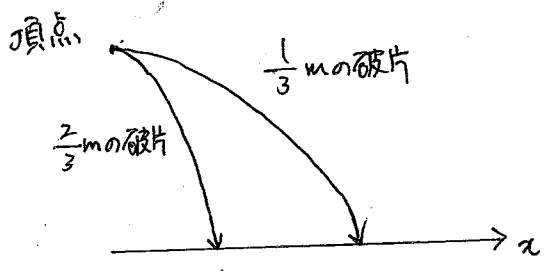
「 $x = x_0 + v_0 t + \frac{1}{2} at^2$ 」より

$$\therefore H_x = N_0 \cos \theta \cdot \frac{N_0 \sin \theta}{g} = \frac{N_0^2 \sin 2\theta}{2g}$$

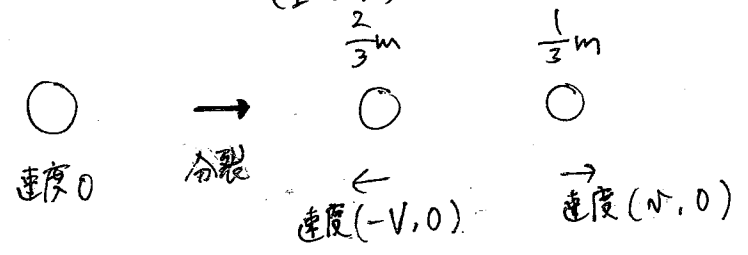
$$H_y = (N_0 \sin \theta) \cdot \frac{N_0 \sin \theta}{g} - \frac{1}{2} g \cdot \frac{N_0^2 \sin^2 \theta}{g^2}$$

$$= \frac{N_0^2 \sin^2 \theta}{2g}$$

(1)



$N_0 \cos \theta$ で右向きに回転する座標系で分裂を観測すると。
(重心系)



運動量保存則より $V : v = 1 : 2$

$$V = \frac{1}{2} v$$

エネルギー保存則に代入して

$$\frac{1}{2} \cdot \frac{2}{3} m \cdot \left(\frac{1}{2} v\right)^2 + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} m v^2 = E$$

$$\frac{1}{12} m v^2 + \frac{1}{6} m v^2 = E \quad \therefore \frac{2}{4} m v^2 = E$$

$$v^2 = \frac{4E}{m}$$

$$\therefore v = 2 \sqrt{\frac{E}{m}}, \quad V = \sqrt{\frac{E}{m}}$$

外から見た座標系に戻して、 $\frac{1}{3} m$ の破片の落下点の x

$$x = \frac{N_0^2 \sin 2\theta}{2g} + (N_0 \cos \theta + 2 \sqrt{\frac{E}{m}}) t$$

頂点から数え (H_y) だけ計る

y 軸方向の運動の方程式より、
± を求めた
 $t = \frac{N_0 \sin \theta}{g}$

$$= \frac{N_0^2 \sin 2\theta}{2g} + \frac{N_0^2 \sin 2\theta}{2g} + 2 \sqrt{\frac{E}{m}} \cdot \frac{N_0 \sin \theta}{g}$$

$$= \frac{N_0^2 \sin 2\theta}{g} + 2 \sqrt{\frac{E}{m}} \cdot \frac{N_0 \sin \theta}{g}$$



落下点間の相対速りは、再び $N_0 \cos \theta$ で初動する座標系に

戻って

$$\left| \underbrace{v - (-V)}_{\frac{1}{2}v} \cdot t \right| = \frac{3}{2} v \cdot \frac{N_0 \sin \theta}{g}$$

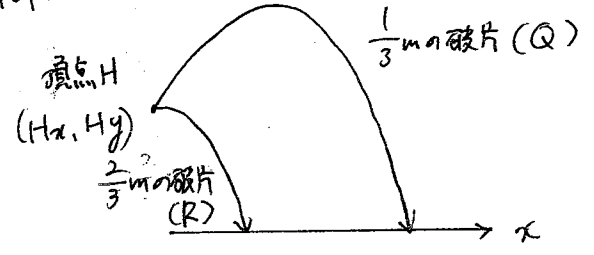
$$= \frac{3}{2} \cdot 2 \sqrt{\frac{E}{m}} \cdot \frac{N_0 \sin \theta}{g}$$

$$= \frac{3 N_0 \sin \theta}{g} \sqrt{\frac{E}{m}}$$

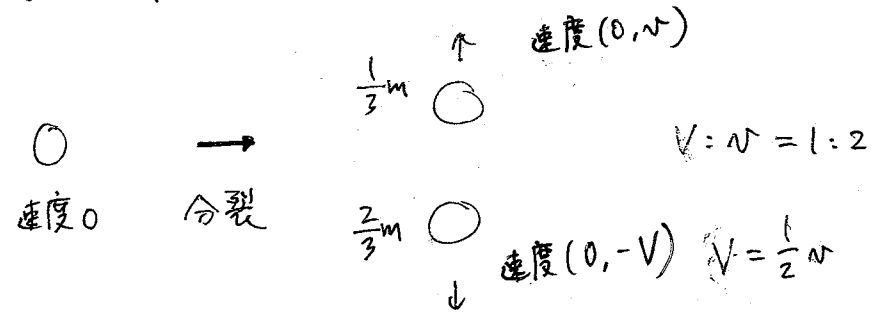
これを使って

$$\star = \frac{N_0^2 \sin^2 \theta}{g} + 2 \frac{N_0^2 \sin^2 \theta}{g} = \frac{3 N_0^2 \sin^2 \theta}{g}$$

問3



$N_0 \cos \theta$ で右向きに初動する座標系で分裂を観測すると。



(2) $\underbrace{\left(\frac{1}{3} m \text{ の破片の落下点} \right)}_{\star} - \left(\text{落下点間の相対速り} \right) = 0$
原点に戻す

この題意。で、 \star を N_0, θ, g で表す。

$$\frac{N_0^2 \sin^2 \theta}{g} + 2 \sqrt{\frac{E}{m}} \cdot \frac{N_0 \sin \theta}{g} - \frac{3 N_0 \sin \theta}{g} \sqrt{\frac{E}{m}} = 0$$

$$\therefore \frac{N_0^2 \sin^2 \theta}{g} = \frac{N_0 \sin \theta}{g} \sqrt{\frac{E}{m}}$$

問2(1)と(保)・(保)は全く同じなので $v = 2 \sqrt{\frac{E}{m}}$ (相対速度)

$$\therefore V = \sqrt{\frac{E}{m}} \quad \left. \begin{array}{l} v - (-V) \\ = 3 \sqrt{\frac{E}{m}} \end{array} \right\}$$

よって $\frac{2}{3}$ の破片が H から地面に到達するまでの時間を t_1 とすると
($x = v_0 t + \frac{1}{2} a t^2$)

$$\frac{N_0^2 \sin^2 \theta}{2g} - \sqrt{\frac{E}{m}} t_1 - \frac{1}{2} g t_1^2 = 0$$

$$t_1 = \frac{\sqrt{\frac{E}{m}} \pm \sqrt{\frac{E}{m} + 4 \cdot \frac{1}{2} g \cdot \frac{N_0^2 \sin^2 \theta}{2g}}}{2(-\frac{1}{2}g)}$$

$$= \frac{\sqrt{\frac{E}{m}} - \sqrt{\frac{E}{m} + N_0^2 \sin^2 \theta}}{-g} \quad \left(\begin{array}{l} \pm \text{はこれ} \\ t_1 > 0 \text{ に } \nearrow \end{array} \right)$$

$$= \frac{\sqrt{\frac{E}{m} + N_0^2 \sin^2 \theta} - \sqrt{\frac{E}{m}}}{g}$$

よって $y_Q = \left(\frac{1}{3}m \text{ の破片の位置} \right) + \left(\frac{1}{3}m \text{ と } \frac{2}{3}m \text{ の破片の} \right. \\ \left. \text{相対速度} \right)$

$$= 0 + 3 \underbrace{\sqrt{\frac{E}{m}}}_{\text{相対速度}} t_1$$

$$= 3 \sqrt{\frac{E}{m}} \cdot \frac{\sqrt{\frac{E}{m} + N_0^2 \sin^2 \theta} - \sqrt{\frac{E}{m}}}{g}$$

$$= \frac{3E}{mg} \left(\sqrt{1 + \frac{mN_0^2 \sin^2 \theta}{E}} - 1 \right)$$



(2) 「Rが地面に達したとき、Qは落下状態だった」つまりQは時刻 t_1 のとき、「第2の最高点 (t_2 とする) より後で地面に着く (t_1 は題意の調べないとしてもよい) 前の状態」。つまり $t_1 > t_2$ は

$$v - gt_2 = 0$$

$$t_2 = \frac{v}{g} = \frac{2}{g} \sqrt{\frac{E}{m}}$$

であるから

$$t_1 > t_2 \quad \text{がそれ。}$$

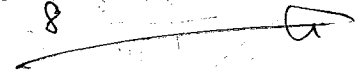
$$\therefore \frac{\sqrt{\frac{E}{m} + N_0^2 \sin^2 \theta} - \sqrt{\frac{E}{m}}}{g} > \frac{2}{g} \sqrt{\frac{E}{m}}$$

$$\sqrt{\frac{E}{m} + N_0^2 \sin^2 \theta} > 3 \sqrt{\frac{E}{m}}$$

$$\frac{E}{m} + N_0^2 \sin^2 \theta > 9 \frac{E}{m}$$

$$-g \frac{E}{m} > -N_0^2 \sin^2 \theta$$

$$E < \frac{mN_0^2 \sin^2 \theta}{g}$$



(3) 題意より

$$\frac{3E}{mg} \left(\sqrt{1 + \frac{mN_0^2 \sin^2 \theta_1}{E}} - 1 \right) = \frac{N_0^2 \sin^2 \theta_1}{2g}$$

$$\sqrt{1 + \frac{mN_0^2 \sin^2 \theta_1}{E}} - 1 = \frac{N_0^2 \sin^2 \theta_1}{6E}$$

よって $\frac{mN_0^2 \sin^2 \theta_1}{E} = x$ とおいて $\sin^2 \theta_1$ を出す。

$$\sqrt{1+x} - 1 = \frac{1}{6}x$$

$$\sqrt{1+x} = \frac{1}{6}x + 1$$

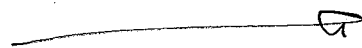
$$1+x = \frac{1}{36}x^2 + \frac{1}{3}x + 1$$

$$1 = \frac{1}{36}x + \frac{1}{3} \quad (x \neq 0 \text{ かつ } 1)$$

$$\frac{2}{3} = \frac{1}{36} \frac{mN_0^2 \sin^2 \theta_1}{E}$$

$$\sin^2 \theta_1 = \frac{2 \cdot 36 E}{3 m N_0^2}$$

$$\therefore \sin \theta_1 = \frac{2}{N_0} \sqrt{\frac{6E}{m}}$$



別解研究

問1 A点のPの速度(v_x, v_y)を

v_x = v₀ cos θ

v_y = v₀ sin θ - g t

とし、t = l / (v₀ cos θ) から運動エネルギーKを先に

K = 1/2 m (v_x² + v_y²)

= 1/2 m { v₀² cos² θ + (v₀ sin θ - g * l / (v₀ cos θ))² }

= 1/2 m (v₀² cos² θ + v₀² sin² θ - 2 g l tan θ + g² * l² / (v₀² cos² θ))

= 1/2 m (v₀² - 2 g l tan θ + l² / (v₀² cos² θ))



と出しても手間はほとんど変わらない。

問2 最高点のy座標H_yを出るとき、エネルギー保存則

mg H_y = 1/2 m (v₀ sin θ)²

たいい略記しなして...

0 → H_y 得位置エネルギー 0 → H_y 矢の運動エネルギー

∴ H_y = (v₀² sin² θ) / (2g) と出してもよい。

また、0 → H_yに要する時間tは、上のH_yと「x = v₀ t + 1/2 a t²」から出することも出来、そこから「x = v t」よりH_xを出してもよい(下記)。

(v₀² sin² θ) / (2g) = (v₀ sin θ) t - 1/2 g t²

H_y

∴ g² t² - (2 g v₀ sin θ) t + v₀² sin² θ = 0

∴ t = (g v₀ sin θ ± √(g² v₀² sin² θ - g² v₀² sin² θ)) / g

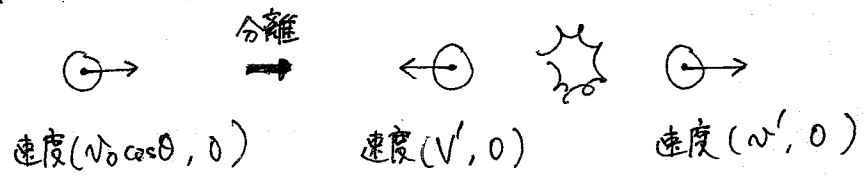
= v₀ sin θ / g

∴ H_x = (v₀ cos θ) * (v₀ sin θ / g) = (v₀² sin 2θ) / (2g)

手間は本解の1.5倍くらい!

問2つが (1) 研究のため、重心系を使わない選択をしてみる。

外から見た座標系で考える。



運動量保存則より

$$m(v_0 \cos \theta) = \frac{2}{3} m v' + \frac{1}{3} m v' \quad \dots \textcircled{1}$$

エネルギー保存則より

$$E + \frac{1}{2} m (v_0 \cos \theta)^2 = \frac{1}{2} \left(\frac{2}{3} m\right) v'^2 + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3} m\right) v'^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ②より v' を出す。①より

$$v' = \frac{3}{2} (v_0 \cos \theta - \frac{1}{3} v')$$

②に代入

$$E + \frac{1}{2} m (v_0 \cos \theta)^2 = \frac{1}{2} \left(\frac{2}{3} m\right) \cdot \frac{9}{4} \left\{ v_0^2 \cos^2 \theta - \frac{2}{3} (v_0 \cos \theta) \cdot v' + \frac{1}{9} v'^2 \right\} + \frac{1}{6} m v'^2$$

$$\frac{E}{3} + \frac{1}{2} (v_0 \cos \theta)^2 = \frac{3}{4} v_0^2 \cos^2 \theta - \frac{1}{2} (v_0 \cos \theta) v' + \frac{1}{12} v'^2 + \frac{1}{6} v'^2$$

$$\frac{4E}{3} + 2 v_0^2 \cos^2 \theta = 3 v_0^2 \cos^2 \theta - 2 (v_0 \cos \theta) v' + v'^2$$

$$\therefore v'^2 - 2 (v_0 \cos \theta) v' + v_0^2 \cos^2 \theta - \frac{4E}{3} = 0$$

$$v' = v_0 \cos \theta \pm \sqrt{v_0^2 \cos^2 \theta - \left(v_0^2 \cos^2 \theta - \frac{4E}{3}\right)} = v_0 \cos \theta \pm \frac{4E}{3m}$$

題意より $v' = v_0 \cos \theta + \frac{4E}{3m}$ 以下 v' が流出合流。

と、全く計算出来ないわけではない。

知らんがな...

(2) $\frac{1}{3}m$ の破片及び $\frac{2}{3}m$ の破片の x 座標をそれぞれ x_1, x_2 とすると

$$x_1 = Hx + (v_0 \cos \theta + v) t \quad \dots \textcircled{3}$$

$$x_2 = Hx + (v_0 \cos \theta - v) t \quad \dots \textcircled{4}$$

という運動をする。 $x_2 = 0$ のときの x_1 の座標を答えればよい。 $x_2 = 0$,

$$v = \frac{1}{2} v_0, \quad Hx = \frac{v_0^2 \sin 2\theta}{2g}, \quad t = \frac{v_0 \sin \theta}{g} \quad \text{を } \textcircled{4} \text{ に代入すると}$$

$$0 = \frac{v_0^2 \sin 2\theta}{2g} + (v_0 \cos \theta - \frac{1}{2} v_0) \cdot \frac{v_0 \sin \theta}{g}$$

両辺 $\times 2g$

$$0 = v_0^2 \sin 2\theta + 2v_0^2 \cos \theta \sin \theta - v_0 \cdot v_0 \sin \theta$$

$$= 2v_0^2 \sin 2\theta - v_0^2 \sin \theta$$

$$\therefore v = \frac{2v_0 \sin 2\theta}{\sin \theta}$$

これを $\textcircled{3}$ に代入して

$$x_1 = \frac{v_0^2 \sin 2\theta}{2g} + (v_0 \cos \theta + \frac{2v_0 \sin 2\theta}{\sin \theta}) \cdot \frac{v_0 \sin \theta}{g}$$

$$= \dots + \frac{v_0^2 \sin 2\theta}{2g} + \frac{(2v_0 \sin 2\theta) \cdot v_0 \sin \theta}{g \sin \theta}$$

$$= \frac{3v_0^2 \sin 2\theta}{g}$$

----- \leftarrow

と出しても、本解の2倍くらいの時間では何とかな。

問3 (1)

$$y_Q = Hy + v t_1 - \frac{1}{2} g t_1^2 \quad \dots \textcircled{5}$$

$$y_R = Hy + V t_1 - \frac{1}{2} g t_1^2 \quad \dots \textcircled{6}$$

$\textcircled{6}$ の左辺 = 0 とした式を解いて t_1 を求め、それを $\textcircled{5}$ に代入して y_Q を求めることも可。この時、数学の“次数下げ”を使うと、計算が多少楽になる。具体的には $\textcircled{6}$ より

$$0 = Hy + V t_1 - \frac{1}{2} g t_1^2$$

$$\therefore -\frac{1}{2}gt_1^2 + Vt_1 + Hy = 0$$

$$-\frac{1}{2}gt_1^2 - \sqrt{\frac{E}{m}}t_1 + \frac{v_0^2 \sin^2 \theta}{2g} = 0$$

$$t_1 = \frac{\sqrt{\frac{E}{m}} \pm \sqrt{\frac{E}{m} - 4\left(-\frac{1}{2}g\right) \cdot \frac{v_0^2 \sin^2 \theta}{2g}}}{2 \cdot \left(-\frac{1}{2}g\right)}$$

$$= \frac{\sqrt{\frac{E}{m} + v_0^2 \sin^2 \theta} - \sqrt{\frac{E}{m}}}{g} \quad (\because t_1 > 0)$$

この t_1 を、⑤に代入してから代入する。⑤より

$$y_Q = Hy + vt_1 - \frac{1}{2}gt_1^2 \quad \left. \begin{array}{l} \text{細工} \\ \text{細工} \end{array} \right\}$$

$$= Hy + Vt_1 - \frac{1}{2}gt_1^2 - Vt_1 + vt_1$$

~~~~~  
⑥より0

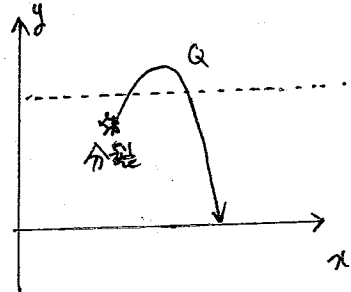
$$= (v - V)t_1$$

$$= \left(2\sqrt{\frac{E}{m}} + \sqrt{\frac{E}{m}}\right) \cdot \frac{\sqrt{\frac{E}{m} + v_0^2 \sin^2 \theta} - \sqrt{\frac{E}{m}}}{g}$$

$$= \frac{3E}{mg} \left( \sqrt{1 + \frac{mv_0^2 \sin^2 \theta}{E}} - 1 \right)$$

~~~~~  
↑

(2) y の世界で考えてみると、1つの x (もしくは t) に対して
2つの y を取り得る部分が出てきて



非常にやりにくい

→ t の世界で考える

(3) 火薬が爆発した点の y 座標 Hy と、

R が着地したときの Q の y 座標 y_Q を $-1L$ で結ばなければならない。

$$\frac{v_0^2 \sin^2 \theta_1}{2g} = \frac{3E}{mg} \left(\sqrt{1 + \frac{mv_0^2 \sin^2 \theta_1}{E}} - 1 \right)$$

これは θ_1 について解く。

~~~~~  
↑

~~~~~  
↑